５月４日（日）主日礼拝　使徒の働き３章１７～２１節

① １７節「無知のためにあのような行いをしたことを、私は知っています」無知とは？イエスキリストが誰であったのかを知らなかった。知ろうとしなかった。

② 「キリストの受難をこのように実現されました」＝キリストの受難は、神のみこころの実現であった。しかし、無知のゆえに犯した罪の責任は問われなければならない。

③ １９節でペテロは「ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。」と言います。自分でどうすることもできない罪を自分で償うのではなく、罪をぬぐい去っていただく。

「あなたがたの罪はぬぐい去られます」＝完全な罪の赦し、痕跡すら残さないほどの罪からの解放がそこにはあることを意味している。

④ 神は、罪をさばくことではなく、赦すことをみこころとしておられるお方。このあわれみは私たちも現れたことは、ローマ人への手紙５章６～８節「実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」から明らかになっている。

私たちの無知＝弱かった、不敬虔な者たち、罪人であった私たちの罪をぬぐい去るために、私の罪を赦すために、私の罪を赦すことを唯一の目的としてイエスは十字架で死なれた。

⑤　２０節、２１節で、主の前から回復の時が来る、欄外注には「あるいは慰め」とある。
→全地が罪の状態から完全に回復される時。それは、主イエスの再臨を待ち望んでいる者たちにとっての慰め。そのために主イエス様が遣わされ、世の終わりが来る。これこそが、神のご自分の民に対する希望と究極の目標と言える。そのためにも悔い改めて神に立ち返りなさいとペテロは言う。

イエスは、ユダヤ人の救い主から全人類の救い主とされる。
マタイの福音書２４章１４節「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。」

⑥　２１節「このイエスは、神が昔からその聖なる預言者の口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません」と言われている。
主の再臨はすぐに起こるわけではない。

ペテロの手紙第二３章９節「主は、ある人たちが遅くれていると思っているように、約束したことを遅らせるのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」
イエス様の現れの時が遅いと思っているようであれば、それは人々が悔い改めに進むこと願ってあわれみのゆえに再臨の時が延されているということ。

⑦　悔い改めて神に立ち返った私たちはどう生きるのか。驚くべき愛とあわれみをもって罪をぬぐい去るほどに罪を赦された私たちはどう生きるべきか。主イエス様の現れによる回復（慰め）を待ち望む私たちはどう生きるべきか。主の愛とあわれみによる赦しに答えるような歩みがなされるように祈ろう。